

泰平閣と尚美館：京都復興の象徴

1868年の東京遷都の後、古都京都を復興させるため、様々な取り組みが行われました。1871年から1920年代にかけて、様々な京都の地域で博覧会が開催されました。最も大規模な第4回内国勸業博覧会は、1895年に京都御所にて開催されました。同年に、平安京（古代の都で京都の古名）の創建1,100周年を記念して平安神宮が建立されました。1916年に東神苑が造られた際に、御所の博覧会ホールの一つが神苑に移築され、尚美館と名付けられました。同時期に御所から移築されたもう一つの建築物が「泰平閣」です。

池の水際に佇む装飾の美しい尚美館ですが、一般には公開されていません。泰平閣は、中央が二層構造になっている屋根付きの橋殿です。屋根は藁葺きの唐破風をしており、中央の建物の屋根には装飾として中国の不死鳥（鳳凰）があしらわれています。鳳凰は吉祥で徳と天恵を表しています。泰平閣内部には、両側に木製のベンチがあり、座って庭園や池の景色を楽しむことができます。